

台北における調査全体を振り返って

（蔡 春美）

2010年の幼児の生活アンケートでは、台北市、新北市（旧台北県）、桃園県、基隆市をサンプルの取得エリアとした。そのため、本文の分析で「台北」と表示しているものは、これら4県市の資料によるものである。

一. 社会背景と幼児教育の推移

（一）社会背景：台北共同生活圏

台北市は台湾北部の台北盆地に位置し、新北市、桃園県、基隆市と隣接しており、台北市には松山空港、桃園県には桃園国際空港、基隆市には国際港湾がある。加えて、高速鉄道（High-speed railroad）とMRT（Mass Rapid Transit）の発達に伴い、この4県市からなる台北共同生活圏が自然に形成された。台北は台湾最大の都市で住民の教養も非常に高く、経済、文化、教育など様々な活動がこの地を起点としている。生活水準や教育レベルも高く、女性の就業も一般的であるため、託児施設の需要や託児に関する要求も高い。近年、台湾の出生率は急速に低下しており、2010年の合計特殊出生率は5年前の1.12人から0.91人へと減少した。このため、就学前機関は、園児確保の難しさを実感している。また、親の子どもに対する愛情の注ぎ方も以前にも増して強いものとなっている。

（二）幼児教育の現状と推移

主な就学前機関は幼稚園と託児所である。台北共同生活圏の幼稚園と託児所は質・量ともに充実しており、現在幼稚園の総数は3,283園、託児所の総数は3,888か所である。台北共同生活圏の4県市でみると幼稚園は全体の31.64%に当たる計1,039園、託児所は全体の43.42%に当たる計1,688か所となっている。台北だけで幼稚園は台湾全体の3分の1余り、託児所では5分の2以上を占め、質・量ともに他の県市を上回っていることが分かる。2010年10月18日に

台湾教育部が公布した「教育に関する施政理念と政策」からは、少子化対策として就学前教育を見直す動きがうかがえる。中でも「少子化対策プロジェクト」や「幼保一元化プロジェクト」は最も注目に値するであろう。

二. 台北における幼児の生活アンケートの結果と分析

今回、台北の調査で回収したサンプル数は計1,745件で、このうち母親による回答は1,563件であった（母親による回答89.57%）。特に注目すべき状況は下記のとおりである。

（一）幼児の家庭の基本状況

1. きょうだい数は多くが2人である。
2. 幼児の両親の年齢は31～40歳が多い。
3. 幼児の両親の学歴はその多くが専科学校・四年制大学卒業程度である。
4. 働いている母親が専業主婦の母親よりも多い。

（二）台北における幼児の生活

1. 幼児の日常における生活リズムは遅寝遅起きの傾向がある。

台北の幼児の平均夜間睡眠時間をみると9時間41分である。ただし、平均で1時間26分の昼寝時間があり、合計した平均睡眠時間は11時間07分となる。

台北の家庭にはほぼ全てテレビがある。テレビ番組は1日24時間放映されている。また、デパートは通常夜10時まで営業しているため、家族の多くは就寝時間が遅い傾向がある。そのため、子どもの就寝時間も同じく遅くなり、その結果起床時間が遅くなっている。幼児の健康への影響に留意する必要がある。

2. 幼児の園で過ごす時間が比較的長い。

台北の幼児が幼稚園や託児所で過ごす平均時間は9時間10分から9時間14分前後である。台北の子どもが園で過ごす時間は比較的長く、北京に次いで2番目である。これは両親が共働

きであることと関係している（母親が常勤者である比率は全体の61.7%を占める）。幼児が幼稚園や託児所で長時間過ごすため、その設備や行事が一層重視されることになる。

3. 幼児の習い事は芸術系が比較的多い。

台北に住む幼児の56.6%が習い事をしており、芸術関連のものが比較的多い。習い事をしている比率は、北京と上海が7割台、ソウルが6割台、東京と台北が5割台である。これは親の経済力および習い事に対する価値観と関係があるが、習い事よりも知的教育のほうに重要と考えている親もいる。

4. 親の園に対する要望が高い。

台北では親の園への要望が非常に高い。「子どもが病気のとくに預かってほしい」において、約70%の親が疾病予防に関する知識を持ち、病気の子どもを園へ預けることを希望していないことを除くと、ほとんどの項目で幼稚園や託児所の協力を積極的に望んでいる（各項目ほぼ80%以上）。

台北の幼稚園、託児所における保護者相談や保護者支援は実際かなり多く実施されているものの、親としては知的教育を増やしてほしい一方で、自由に遊ぶ時間を増やしたり、友だち付き合いが上手になるような働きかけをしたりしてほしいと考えており、時間配分については親と子どもを預かる側が十分に話し合う必要がある。

（三）母親の子どもに対する教育意識

1. 母親の子育て意識

台北の母親の子育て意識に関しては、肯定的な感情として「自分の子どもは結構うまく育っていると思うこと」が77.3%であることを除くと、残り4項目の比率はいずれも91.6%以上であり、子育ておよび子どもとの関係にはかなり満足していることがうかがえる。

否定的な感情の5項目については、台北の母親は「子どもに八つ当たりしたくなること」が23.0%であることを除くと、残り4項目の「子どものことでどうしたらよいか分からなくなること」、「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること」、「子どもがわずらわしくていろいろ

らしてしまうこと」、「子どもを育てるためにがまんばかりしていると思うこと」の比率は54.2%～84.6%であり、台北の母親が子育てに悩んでいることがうかがえる。これは母親が働いている比率が高く、家庭と両立ができないこと、また幼稚園や託児所は保護者を支援しているものの、講演会などの形式に偏っており、個別相談の機会が比較的少ないことが原因で、母親にとって子育ての情報や子育てに対するサポートが十分ではないことが関係している。

2. 子どもの将来に対する期待

台北の母親の回答では「自分の考えを貫き通す人」、「仕事で能力を発揮する人」の比率が高く、子どもが積極的に社会活動に参加することを望んでいるようである。

3. 子どもの存在

台北の母親は、東京、北京、上海の母親に次いで、子どもが「生活や人生を豊かにしてくれる存在」であると考えており、「自分とは独立した人格を持つ存在」であると思っている。ただし、「将来の社会をになってくれる存在」の比率は35.2%にとどまっており、社会意識が希薄なようにも思われる。また、これは前項目の「子どもの将来に対する期待」で表れた「子どもに社会活動に参加してほしいという期待」とも矛盾している。

4. 母親の子育て観

子どものしつけに関しては、台北の母親は、分かるまで優しく言い聞かせるのがよいと考え、文字や数の学習に対しても、子どもが関心を持つようになってから教えるのがよいと考えている。

三. 台北の就学前教育の今後

今回のアンケート調査を経て、就学前教育に対して下記の4項目を提案したい。

- 一 少子化対策として保護者支援を強化し、教育に関する情報の提供や子育て相談を一層充実させる。
- 二 就学前教育を向上させるために「幼保一元化プロジェクト」の早期実現を図る。
- 三 子育てに対する過度の悩み、親の意識と行動の不一致などについて適切なアドバイスを行

う。

- 四 幼児の学習ストレスは生活リズムや人間関係に影響を及ぼす。早急に解消し、楽しい子ども時代を幼児に取り戻させる。